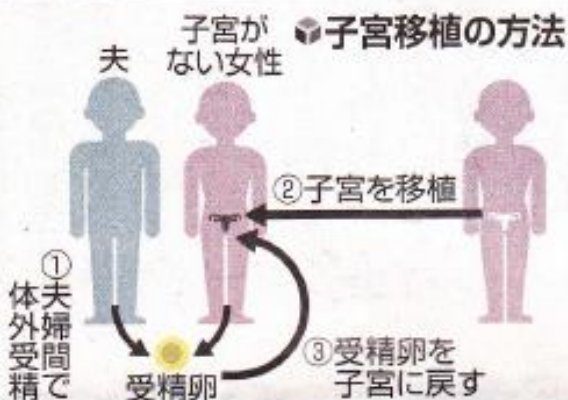


# 子宮移植実施へ要望書

## 慶大などチーム 学会が是非検討



子宮がなくても出産を望む女性への「子宮移植」を検討している慶応大や京大などのプロジェクトチーム（PT）は17日、日本産科婦人科学会と日本移植学会、日本生殖医学会に対して、子宮移植の実施に関する見解を求める要望書を郵送した。各学会は今後、倫理面や安全面で問題がないかなどを検討する。実施に向けて一歩前進した形だ。

子宮移植は、生まれつき子宮がなかったり、がんなどの病気で子宮を摘出したりの女性に母親など第三者の子宮を移植し、あらかじめ体外受精させた受精卵を戻して妊娠、出産させる技術。対象となりうる女性には、国内に20〜30歳代だけで推計6万〜7万人いるとされる。

PTは今年8月、「営利目的の斡旋禁止」などの倫理指針をまとめた。要望書では、この指針に対し、学会の見解を求めている。

生体間の臓器移植は日本移植学会の指針に基づいて行われているが、出産を目的とした子宮移植について同じように認められるかなども聞いている。子宮移植

は2000年から海外で実施されており、スウェーデンでは今年9月、子宮移植を受けた女性が出産に世界で初めて成功。さらに、2人が出産した。

国内では、PTが2年前に、子宮を摘出して再び移植し直したサルで出産に成功している。

PTの菅沼信彦・京大教授（生殖医学）は「子宮移植は社会的に影響の大きい技術なので、医師と患者だけで進めるのではなく、関連学会や一般の意見を広く聞いた上で、数年以内に臨床研究を実施したい」と話している。

〈解説3面〉

人には自然が薬です。

# 松寿仙

しょうじゅせん

第3類医薬品 緑の滋養強壮剤

クマザサ・アカマツ・ニンジン

【効能・効果】次の場合の滋養強壮：虚弱体質、肉体的疲労、病中病後、胃腸虚弱、食欲不振

カボニー産業株式会社 カボニー 検索



〈タリパ〉

# 実現へ 安全・倫理面に課題



## 子宮移植

1面

代理出産が国内で認められていない中、子宮移植は子宮がなく子供をあきらめていた女性に大きな希望を与える可能性があるが、実現には課題も多い。

単なる子宮摘出に比べ、移植では太い血管も一緒に

切り取るため、提供者の体への負担は大きい。移植を受けた側も他人の臓器への拒絶反応を抑えるため、妊娠中でも免疫抑制剤を服用する必要があり、安全性の検証が必要だ。また、子宮が売買されたり、患者の母親が暗に提供を強制されたりすることも懸念される。それでも、他人に産ませ

る代理出産に比べれば、自分で産む子宮移植の方が倫理的問題は少ないという声が多い。日本では法律上、出産した女性が母親とみなされるため、代理出産のように親子関係の問題が生じる心配もない。

子供を望む切実な声に耳を傾けながら、安全面と倫理面の両面から子宮移植実現の可能性を慎重に探っていくべきだ。

（編集委員 鈴木あづさ）